

教育相談

# 温かい人間関係に支えられた 学級づくりをめざして

- 構成的グループエンカウンターの実践を通して -



浦添市立教育研究所 30期教育研究員

浦添市立宮城小学校 山川志磨子

# 目次

## 【要約】

テーマ設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

目ざす児童像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

研究の目標

研究仮説

1 基本仮説

2 作業仮説

研究構想図

研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

1 育てるカウンセリングについて

2 自分自身や他者を信頼できる子

3 構成的グループエンカウンター

4 Q - Uアンケートについて・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

指導の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

1 学級の実態調査の結果と考察

2 全体計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

3 検証授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

4 実践の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

(1) 作業仮説1の観点から

(2) 作業仮説2の観点から・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

(3) 作業仮説3の観点から・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

研究の考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

1 Q - Uアンケートから

2 抽出児の変容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

研究の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

1 研究の成果

2 今後の課題

## 【おわりに】

## 【主な引用・参考文献】

# 温かい人間関係に支えられた学級づくりをめざして

- 構成的グループエンカウターの実践を通して -

浦添市立宮城小学校 山 川 志 磨 子

## 【要約】

構成的グループエンカウターを用いて、温かい人間関係を育むことを目指して実践してきた。その効果を高めるため、道徳の授業でのレディネス作り、学級の実態や児童の関係性の深まり等を考慮したエクササイズの実践や全体計画作り、シェアリングを補足するための学級通信の活用等の工夫をした。様々なエクササイズで友達とふれ合うことにより、児童相互の心的距離を縮めることができた。

### キーワード

育てるカウンセリング 構成的グループエンカウター  
学級経営 温かい人間関係 学級通信 道徳

### テーマ設定の理由

昨今、社会の変化はめまぐるしく、子供達を取り巻く環境も大きく変わってきている。少子化、核家族化、また地域の連帯感が薄れ、子供達の人間関係も希薄になってきていると言われている。以前なら一人の子供に対して、兄弟、両親、祖父母、近所の異年齢集団、地域のおじさんおばさん等多くの人間関係があり、その中で自然に人との関わり方を身に付けていた。しかし、今ではそれが難しくなっている。

その子供達の人間関係の希薄化は、学校においては不登校、いじめという形で表れてきている。学級崩壊についても、学級内の個々の連帯感の弱さが一因にあると考えられる。文部科学省初等中等教育局の統計によると、平成 14 年度のいじめの発生件数は、全国の小中学校で 2 0221 件、県内でも 1 82 件になる。また、不登校（30 日以上欠席）については、全国の小中学校で 131211 人、県内でも 1685 人おり、平成 13 年度よりも多少減少しているものの、依然として深刻な状況である。

実際、毎日の教育実践の中で、問題行動とまではいかなくても、「些細なことで喧嘩になる」「うまく仲直りができない」「グループ活動の時に自分達だけで役割分担ができない」「過剰に周りの

目を気にする」「お互いの要求を調整できない」などの場面が目につくようになった。特に、現在受け持っている学級ではその傾向は強く、10 月に行った実態調査では、学級の約 45 % の子が「クラスの中に自分の気持ちをわかってくれる人はいない」と答えており、また、約半数の子が「クラスの人に嫌なことを言われたりされたりして辛い思いをすることがある」と答えている。

しかし、人間は「社会的動物」と言われているように、人との関わりなしに生きていくことはできない。学級で行った別のアンケートに「あなたは、学校が好きですか？」という問があるが、「はい」と答える子のほとんどは、「友達がいるから」ということを理由に挙げている。また逆に、「いいえ」の子は、「友達がいないから」「意地悪する子がいるから」等と答えていることから、子供達にとって学級の人間関係がいかに重要かが伺える。このような状況においては、教師が意図的にふれあいの場を設定する必要があると考える。

構成的グループエンカウターは、人間関係づくりや自己発見をねらいとして生まれた育てるカウンセリングの一技法である。何か問題が起こってから、一対一で受け身的に治すために行われるカウンセリングとは対照的に、問題が起こる前に、

集団を対象に能動的に行われる予防的開発的なカウンセリングであり、学校という場に大変馴染むものだと考える。そこで、本音と本音の交流を促す構成的グループエンカウンターを活用して、リレーションを深め、自他への気づきから理解を深めることで、温かい人間関係を築くことができると考え、本テーマを設定した。

### 目指す児童像

自分自身や他者を信頼できる子。

### 研究の目標

構成的グループエンカウンターをより効果的に実践することにより、温かい人間関係が基盤にある学級づくりをめざす。

### 研究の仮説

#### 1 基本仮説

構成的グループエンカウンターをより効果的に実践することにより、自分自身や他者への理解が深まり、温かい人間関係を築くことができるだろう。

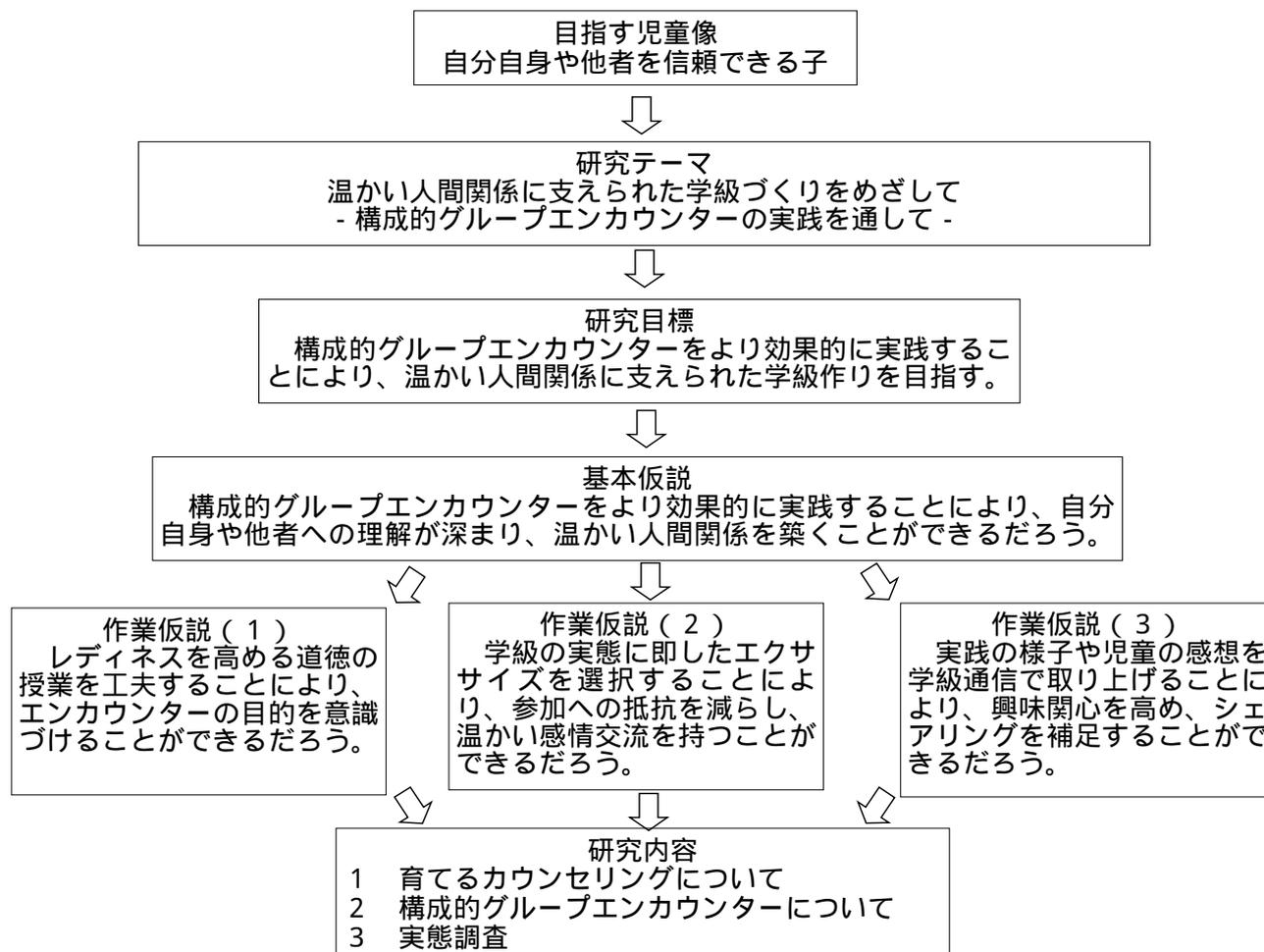
#### 2 作業仮説

(1) レディネスを高める道德の授業を工夫することにより、エンカウターの目的を意識づけることができるだろう。

(2) 学級の実態に即したエクササイズを選択することにより、参加への抵抗を減らし、温かい感情交流を持つことができるだろう。

(3) 実践の様子や児童の感想を、学級通信で取り上げることにより、興味関心を高めシェアリングを補足することができるだろう。

### 研究構想図



## 研究内容

### 1 育てるカウンセリングについて

カウンセリングというと、一対一で話しをしながら様々な悩みを持った人の問題を解くものだというイメージが強いように思う。不登校やいじめ、学級崩壊などの問題が起こったときに、解決に向けて援助するのが「治すカウンセリング」である。それとは対照的に、このような問題が起こる前に予防したり、子供の適応や自己成長を能動的に援助しようとするのを「育てるカウンセリング」という。

育てるカウンセリングの具体的な方法としては、人生計画の援助をするキャリアガイダンスや心理的なものの見方や行動の仕方を教えるサイコエジュケーションなどがあり、構成的グループエンカウンターもその中の一つである。

### 2 自分自身や他者を信頼できる子

「自分自身や他者を信頼できる」とは簡単に言えば、自分自身にマイナスイメージがなく、受容できる、つまり好きになれることであり、また他者についても、違いを認め好きになれることと捉える。

育てるカウンセリングの中心は、児童生徒が思考、感情、行動のいずれかに今よりも豊かな反応の選択肢があることを学ぶことにある。そして、育てたい健康なパーソナリティとして、思考面では、「人々は仲間であると思える」「自分は課題に対応できる力があると思える」こと、感情面では、「自分が好き、人が好きと思える」こと、行動面では、「自分で決めて責任を引き受けることができる」「社会と調和して生きることができる」ことなどを目標としている。

ギャングエイジと言われ、社会性が発達する三年生の段階では、感情面に焦点化し働きかけたいと考える。

### 3 構成的グループエンカウンター

#### (1) 構成的グループエンカウンターとは

構成的グループエンカウンターとは、人間関係づくりや、自己発見をねらいとして生ま

れた、育てるカウンセリングの手法の一つである。人数・時間・テーマなどの枠（構成）を与え、エンカウンター（本音と本音で交流できる親密な人間関係、体験）を、グループ（集団）を通して行う。

#### (2) 構成的グループエンカウンターの流れ

##### インストラクション

インストラクションとは、エクササイズの導入部分で、そのねらい、内容、ルールを説明することである。児童にわかりやすいように、教師がデモンストレーション（演示）することもある。

##### エクササイズ

エクササイズとは、ふれあう人間関係づくりを促す課題の事をいう。リーダー（教師）は、ルールが守られているか、ダメージを受けている児童がいないかなどを確認し援助する。

##### シェアリング

シェアリングとは、エクササイズを通して学んだこと、考えたこと、感じたこと、気づいたことなどを振り返り、分かち合うことである。

#### (3) 実施上の留意点

##### 個別の配慮

エンカウンターの参加者は、必ずしもカウンセリングマインドをもって臨んでいるとは限らない。発達段階的に未熟な小学生であれば尚更、それに参加したために逆に傷ついてしまう子が出てくる可能性もある。その心的外傷（ダメージ）の予防と対応には次の五つがある。

##### 個人的な事情に配慮

エクササイズを始める前に、このエクササイズで劣等感や罪障感をもつメンバーがいないか確認する。

##### 臨機応変の策を

誰もができるエクササイズかどうかを考え、状況に応じて個別のルールを作るなど臨機応変に対応する。

リーダーが補助自我に

補助自我とは、簡単に言えば助け船の役を果たす人のことである。例えば、仲間に傷つくことを言われたり、何と書いていいかわからず黙っている子へ、「～と書けばいいよ。」と示すことである。

グループ全体の観察

リーダーはエクササイズ中、自己中心的に話さずなの子、防衛して全く話さない子、抵抗を示してつまらなさそうにしている子、失愛恐怖から遠慮しがちな子、ストローク欲求からふざけている子などを観察しておく。それによって不快な思いをした子がいるのなら、全体の場で軽くコメントしておく。

自己開示の強要はないか

自己開示とは、自分のありのままを示すことである。エンカウンターでのねらいであるふれあいをもつためには、自己や他者への理解が必要である。そして、そのためには自分を表すことが必要であり、エンカウンターにおいては自己開示は大きなポイントになる。しかし、表現の自由があるように黙る自由もあり、また自己開示の能力にも個人差がある。そのため、仲間から自己開示を強要されているような場面があれば、リーダーの介入が必要になる。

抵抗への予防と対策

抵抗とは、エンカウンターへの拒否感のことである。その予防と対策には三つある。

子供の興味と能力の発達段階を考えて、誰もが参加できるエクササイズを選ぶ。

抵抗が予想されるエクササイズは、インフォームドコンセントの発想で事前説明を工夫する。

教師が事前にデモンストレーションをして見せる。

教師の姿勢

構成的グループエンカウンターは、言い換えれば自己開示の勧めである。そこで、リーダ

ー自身が自己開示できることが望ましいと考えられる。これには、子供にヒントを与える、見本になる、親近感を持たせるという三つの意味がある。しかし、何でも開示すればよいというものでなく、自慢話や説教になっていないか、感情的になっていないかなどの確認が必要である。

(4) エクササイズの選び方

学級の実態に即したエクササイズを選ぶ時、次の四つに考慮する。

ねらいによる選択

エクササイズのねらいには五つある。

自己理解

他者理解

自己受容

信頼体験

感受性の促進

これらのねらいを学校・学年行事、学級活動等に関連させてエクササイズを選ぶ。

モチベーションによる選択

児童が初めて構成的グループエンカウンターを経験する場合、モチベーション（意欲）を高めるエクササイズから選んだ方がよい。はじめは、ゲーム性の高いものから選び、モチベーションが高まるに従ってより深い内容へと進む。

レディネスによる選択

児童のレディネスの有無や度合いによって、エクササイズを選ぶ。エクササイズのねらい、達成の度合いは、児童のレディネスによって決まることが多い。

リーダーの経験度による選択

構成的グループエンカウンターは、リーダーのデモンストレーションの仕方や自己開示の仕方によって、エクササイズの深まりに違いが出てくる。そこで、リーダーは自分の経験度や力量にあったエクササイズを選ぶ必要がある。

4 Q - Uアンケートについて

Q - Uアンケートとは、児童それぞれの状

態及び学級の状態を客観的、多面的に理解するための調査法の一つで、教師の日常的な観察法や面接法の限界を補うことが期待できる。内容は次の二つからできている。

(1) 学校生活意欲尺度

学校生活における児童の意欲や適応を友達関係、学習意欲、学級の雰囲気の中の三つの観点から把握するものである。児童を理解するためには、意欲が高いか低いか、また三つの観点のバランスはどうなっているか見る必要がある。

(2) 学級満足度尺度

それぞれの児童が、学級や友人に対してどのような感じ方をしているかを確認することができる。クラスに居場所があるか(承認尺度)を縦軸、いじめなどの侵害行為を受けていないか(被侵害尺度)を横軸で表し、その交差する点によって四つの群に分けられる。

学級生活満足群

学級で存在感があり、かついじめや悪ふざけを受けている可能性が低い児童

非承認群

いじめや悪ふざけを受けている可能性は低い、認められることが少なく、自主的に活動することが少ない可能性が高い児童

侵害行為認知群

自主的に活動しているが、少し自己中心的で、他の子とトラブルを起こしている可能性が高い児童

学級生活不満足群

学級内でいじめや悪ふざけを受けていたり、不安傾向が強い可能性が高い児童

学級不満足群の中でもさらに個別の援助を必要とする児童を要支援群とする

指導の実際

1 学級の実態調査の結果と考察

(1) Q-Uアンケート(10月22日実施)

学校生活意欲尺度

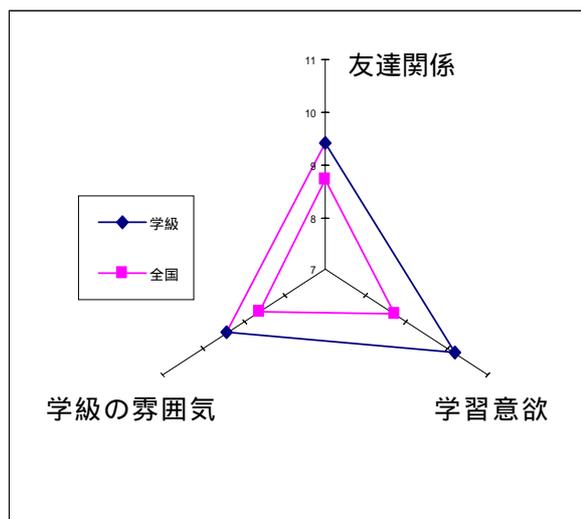


図1 学校生活意欲尺度

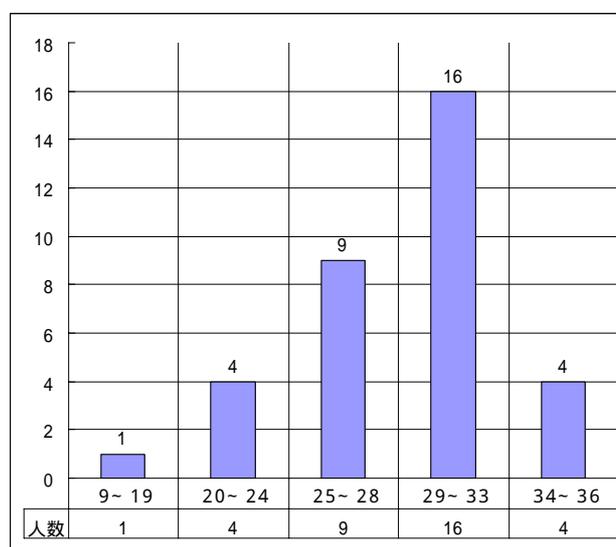


図2 学校生活意欲総合得点の分布

学級のプロフィールを見ると、三つの領域に極端な偏りはなく、それぞれの数値も全国平均より高い。また、総合点の分布図も正規分布ではなく高得点に傾いていることから、かなり意欲が高いことがわかる。

しかし、おとなしい子が活発な子の影に隠れてしまっている可能性もあり、目立たない子にもスポットが当たるような機会を持つようにしたい。また、個人のプロフィールを見ると、バランスに偏りのある子、極端に数値の低い子もあり、個別の対応が必要である。

## 学級満足度尺度

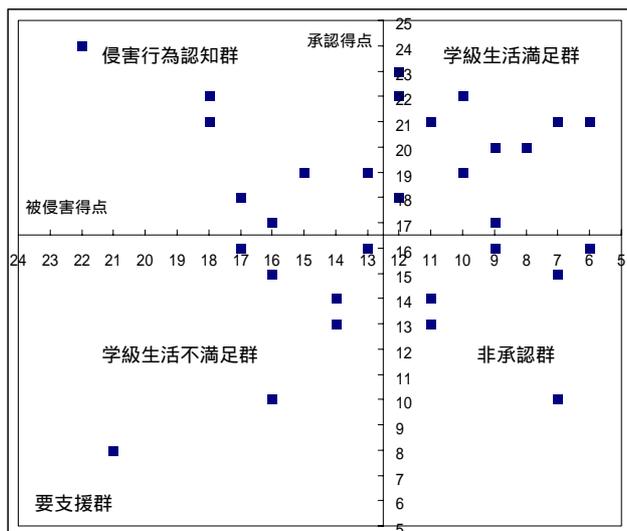


図3 学級満足度尺度

学級生活不満足群に属する子が、全国平均程度ではあるものの、侵害行為認知群に属する子がやや多い。児童間のトラブルが多く、集団生活のための基本的なルールが確立していない可能性がある。そこで、互いの良さを認め合えるような受容的な雰囲気作りとともに、集団生活の基本的なルールを確立させるような指導が必要である。また、要支援群に属する子も一人おり、個別に面接し教師とのリレーションを深めたり、エクササイズを選択する際にも配慮が必要である。

### 自由記述式アンケート

Q-Uアンケートの最後に「友達紹介コーナー」という記述式のアンケートがある。学級内の友達を三人書き、その友達のいいところを紹介するというコーナーである。どの子がどの子に紹介されているか、児童名簿にまとめてみた。すると、誰にも紹介されていない子が男子に3名、女子に2名おり学級での友達とのつながりが薄いことがわかる。エクササイズの際には、配慮が必要である。

## (2) アンケート (10月30日実施)

表1 実態調査アンケート (人)

	好き		普通		好きではない	
	男	女	男	女	男	女
あなたはクラスの友達が好きですか?	4	10	13	5	1	1
クラスの友達はあなたのことが好きだと思いますか?	1	5	12	10	5	1
あなたは自分が好きですか?	12	10	5	6	1	0

各質問の後には、それを選んだ理由も書いてもらった。では、肯定的な理由には、「遊んでくれる」「助けてくれる」等があり、否定的な理由には「喧嘩がある」というのが一番多く、次に「一緒に遊んだことがない人がいる」ということが挙げられていた。また、「クラスの友達は自分のことを好きだ」と思える子が少なく、自分が友達にどう思われているのか自信が持てない姿が伺える。

では、学級の約65%の子が自分を好きだと肯定的に捉えている。普通と答えている子も、長所も短所もあるからというような内容で否定的に捉えているわけではないと考えられる。好きではないと答えている子に対しては、自分の良さに気がつける働きかけが必要である。

## 2 全体計画

エクササイズの選択には、実態調査から浮かび上がった学級の特徴、児童の興味関心や能力、発達段階などを考慮した。またそれぞれのエクササイズの配列は、児童相互の人間関係の深まりを配慮して、エンカウンターへのレディネス作り モチベーション(意欲・興味づけ) お互いを知る お互いを信頼する お互いを認める 温かい人間関係という順にした。

表2 全体計画

	月日	題材	ねらい	活動内容	評価の観点
実態調査	10.22	Q-U アンケート (朝の会)	児童の学校生活意欲や学級満足度の実態を把握する。	・問題をよく読み、自分の気持ちに合う項目を選ぶ。	全ての質問に答えることができたか。
	10.30	アンケート (朝の会)	児童の友達や自分自身についての見方を把握する。	・問題を読み、自分の気持ちに合う項目を選びその理由も書く。	全ての質問に答えることができたか。
レディネス	11.18	ルールを守ろう (道徳)	互いに気持ちよく過ごすためにルールは大変重要であることを理解する。	・ルールの必要性について話し合う。 ・「ケンカもルールを守って」のビデオを見る。	集団生活におけるルールの必要性が理解できたか。
モチベーション	11.20	すごろく トークン (ショート)	すごろくを通して、互いの考えや経験を語り合い、相互理解を深める。	・生活グループですごろくをし、進んだ目の指示通りに自分の事を話す。	テーマに沿って話すことができたか。
	11.26	ビンゴ (ショート)	友達の好みを知り、親近感を持たせる。	九つのマスに好きな食べ物を書き入れ、友達の発表を聞いて消していき、列が揃ったらビンゴと言う。	心を開いてビンゴを楽しむことができたか。
レディネス	11.26	天国と地獄 (道徳)	協力・思いやりや助け合うすばらしさを知る。	・天国と地獄の話を読み、その違いについて話し合う。	助け合う良さを理解できたか。
相互理解	11.27	せんべい 友達 (ショート)	おかしを食べながら、和やかな雰囲気の中で自己開示できるようにする。	・煎餅の片割れを持って相手を探す。 ・相手を探している時の気持ち、見つかった時の気持ちを発表する。	ペアを見つけるために積極的に友達と関わったか。
	12.4	か×か? (学活)	ゲームを楽しみながら友達への理解を深め、児童間の親密性を増す。	・自分に関する ×問題を作る。 ・出題者は問題を読み上げ他の子は側×側に動く。	自分の問題を発表したり友達の発表が聞けたか。
	12.11	ねえ どれがいい? (国語)	自分の価値観を明確にすると共に友達と紹介し合うことで他者との違いに気づく。	・ワークシートの各項目について二つのうちから好きな方を選ぶ ・ペアでシートを交換し選んだ理由を紹介し合う。	自分の事を話し友達の話が聞けたか。
信頼感	12.18 本時	ブラインド ウォーク (学活)	他者に支えられることの素晴らしさを味わう。人を支えることの喜びを知る。	・二人組で、一人が目を閉じ、もう一人がその人の目となって誘導しながら教室の内外を自由に歩く。	相手を思いやって誘導したり、相手を信頼して任せられたか。
	1.8	団結の木 (体育)	力を合わせると成功するという実感を体で感じることで、信頼感を深める	・5人グループを作り、新聞紙一面分に三十秒間乗る。	課題達成のために仲間と協力し合えたか。
自己肯定	1.15	自分は自分 (学活)	友達の個性を尊重し、自分の個性に誇りを持つ。	・自分自身の個性や体験をカードに書く。読み上げるのを聞いて誰のことか予想して書く。	自分自身への理解を深めることができたか。
	1.22	ありがとう カード (学活)	自分の行為が受け入れられていることの喜びを味わう。	・友達に親切にしてもらったことを思い出し、カードに書く。 ・カードを交換し合う。	自分がしてもらっている事に気づく事ができたか。
実態調査	1.23	Q-U アンケート	児童の学校生活意欲や学級満足度の実態を把握する。	・問題をよく読み、自分の気持ちに合う項目を選ぶ。	全ての質問に答えることができたか。
	1.27	アンケート	児童の友達や自分自身についての見方を把握する。	・問題を読み、自分の気持ちに合う項目を選び、その理由も書く。	全ての質問に答えることができたか。
適応	3月	別れの花束 (学活)	友達の良さを見つけることで他者に対し肯定的な感情を育て温かな人間関係をつくる。	一年間を振り返り、友達の良い所を見つけてシールに書き台紙に貼ってプレゼントする。	友達の良い所を見つけて書くことができたか。

### 3 検証授業

平成15年12月18日(木)

3年2組(男子18名、女子16名)

場所 視聴覚室

(1) 題材名「ブラインドウォーク」

(2) 題材について

これまで児童は、「せんべい友達」「か×か」「ねえどれがいい?」などのエクササイズを通して、自分のことを相手に伝えたり、相手のことを聞いて理解したりすることを経験してきた。そこで今回は、互いに理解し合うだけでなく、更に一步踏み込み、互いに信頼し合える関係作りをねらい本題材を選択した。

この「ブラインドウォーク」は、二人一組になり、一人が目を閉じ、もう一人が案内をするというエクササイズである。目を閉じて歩くという不安定な状況では、友達の言葉や支えだけが頼りであり、友達の思いやりをより身近に感じられることが期待できる。また逆に、友達を安全に案内するためには、相手の言葉や様子によく注意を払い、相手の気持ちを考えなければならない。

発達段階的に、ギャングエイジと呼ばれる三年生の冒険心を満たしつつ、「信頼感」というテーマに迫れると考え本エクササイズを選択した。

(3) 指導について

エクササイズ中、教師は絶えずルールが守られているか、ダメージを受けている子はいないかということを確認しなければならない。信頼感を体験するためのエクササイズのはずが、案内されている時に人や物にぶつかるなど、不安になるようなことがあっては逆効果である。

場の設定については、活動範囲が広い、緩やかな傾斜や段差などの変化があることから視聴覚室とその前の廊下を設定した。しかし、活動範囲が広い分、児童一人一人の様子を把握するのは難しくなることが考えられる。そ

のため教師は、絶えず巡回する必要がある。

(4) 児童について

本学級の子供達は、全体的に活動的な子が多く、このエクササイズにも積極的に参加することが予想される。しかし、不安傾向の強い子も数人いるため、エクササイズ中配慮が必要である。もし、抵抗を示すようであれば、介入し不安を軽減できるように働きかけなければならない。

進級当初から、男女関わることに抵抗が大きく、また、信頼体験をテーマとするエクササイズは初めてということもあり、男子同士、女子同士で、組みたい友達を自分で探すという方法を取りたい。そして次回のエクササイズでは、二人組から小グループへと輪の拡大を図りたい。

(5) 本時のねらい

友達を支えたり、友達に支えてもらう体験から、友達への信頼感を高める。

(6) 授業仮説

友達を安心させる支え方を考えることにより、相手の気持ちを思いやることができるだろう。

友達に安全に支えてもらうことにより、友達への信頼感を高めることができるだろう。



(7) 指導の展開

	学 習 活 動	教 師 の 支 援	留 意 点
ウ ア ッ ム	1. ウォーミングアップのゲームをする。 2. パートナーを決める。	児童の集中力を高めるような声かけをする。 気持ちよくスタートできるようにルールを徹底する。	・和やかな雰囲気作りをする。 ・自分で探せない子の手助けをする。
ライ ク ン ト	3. エクササイズの流れとねらいを聞く。 4. 教師のデモンストレーションを見る。	順序やポイントがわかるようにカードを使って説明する。 相手の支え方をデモンストレーションする。	・明瞭簡潔に話す。 ・具体的なイメージが持てるようにする。
エ ク サ サ イ ズ	5. ブラインドウォークをする。 ・どちらが先か後か話し合う。 ・役割を交代する。 ・早く終わった子はパートナーを替えて行う。	エクササイズに拒否感を表している子がいないか、ルールが守られているか確認する。 トラブルを起こしている子がいれば介入する。	・環境の安全を再度確認する。 ・全体を観察し、ダメージを受けないよう配慮する。
シ ェ ア リ ン グ	6. エクササイズをやってみての感想を分かち合う。 ・教師の話聞き、自分の気持ちに合うものに手を挙げる。 ・パートナーと感想を分かち合う。 ・学級全体で感想を分かち合う。	目を閉じて、今日の活動やその時の気持ちを振り返らせる。 児童の気持ちを代弁して挙手させる。  一人の気付きを全体で共有できるようにする。	・より児童の気持ちに沿った言葉で表す。 ・受容的な雰囲気作りをする。
ま と め	7. シェアリングを含めての感想をワークシートに書く。 8. 教師の話聞く。	書けない子へは活動を振り返らせる声かけをする。 児童の取り組む姿勢を評価する。	・文章が目的ではないので無理強いしない。 ・次回への意欲を持たせる。

(8) 評価

友達を安心させる支え方を考え、相手の気持ちを思いやることができたか。

友達に安全に支えてもらうことにより、友達への信頼感を高めることができたか。

(9) 板書計画

時間短縮のため、カードを用いる。

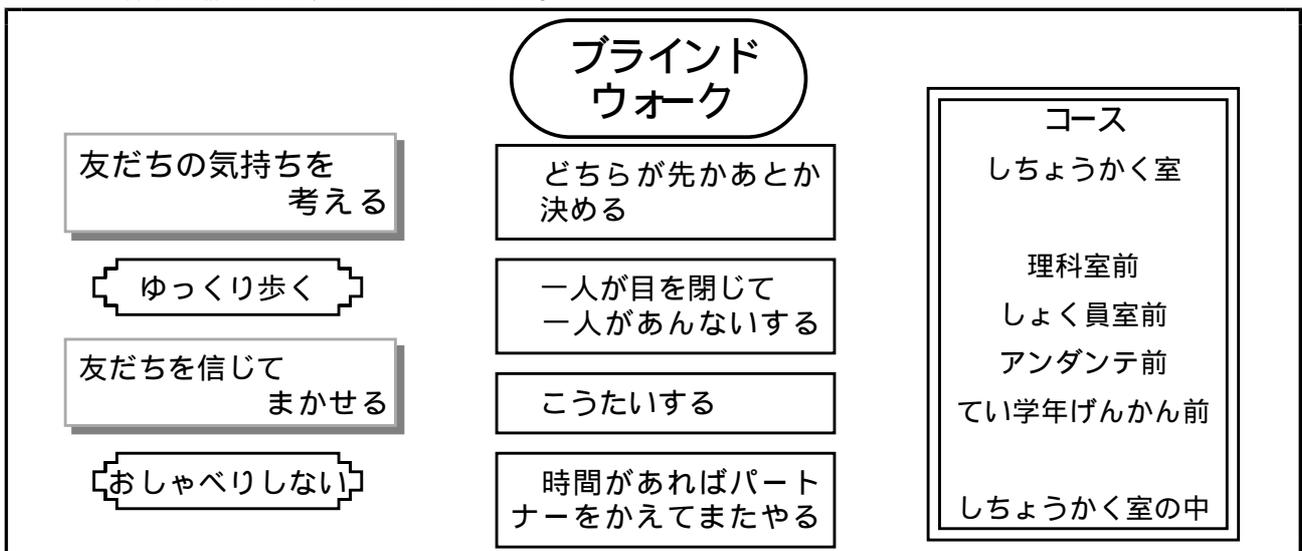


図4 板書



写真1 目を閉じた友達の肩を支えて歩く様子

(10) 考察

授業仮説の検証

仮説1

友達を安心させる支え方を考えることにより、相手の気持ちを思いやることができるだろう。

インストラクションでパートナーの支え方を話した時、「こういうやり方がいいよ。」など子供達からいくつかのアイデアがでたことから、子供達は自分が案内される立場だったということを知り、子供達なりに考えていることが伺えた。また、スタートする前に互いにどんなやり方がいいのか相手に確認する子も多かった。

授業後の児童の感想からは、次のような声があった。

ぼくは、Y君を怖い目に遭わさないようにゆっくり歩きました。

友達を案内している時、友達は怖がっていないかなあと思いました。

友達の不安や心配な気持ちが僕にちょっと伝わってきました。

振り返りアンケートでは、「友達の気持ちを考えて案内できましたか」という質問に対し、×の四段階のうち、22名の子が、7名の子が、2名の子がをつ

けていた。という子はそれぞれ、「パートナーとふざけてしまった」「考えようとしても難しかった」と答えていたため、個別に話をした。

以上のことから、子供達なりに相手のことを考えながら案内できたと考える。

仮説2

友達に安全に支えてもらうことにより、友達への信頼感を高めることができるだろう。

ぼくが目を閉じた時、前に壁がありそうだし、みんながいてぶつかるかなと思ったけど、T君が言葉でちゃんとやってくれたのでぶつからないでゴールに辿り着くことができました。

友達に案内されている途中の曲がり角で少し怖いなあと思っていたけど、友達が「大丈夫だよ。」とやってくれたので、安心しました。

私が目をつぶっていたら、壁にぶつかるな誰かとぶつかるかなととてもこわかったけど、Mさんが「大丈夫。ゴールはもうすぐだよ。」と優しく言ってくれて怖くなくなり、Mさんとっても優しいんだと思いました。

最初は怖かったけど、Tさんを信じてやっていたら慣れてとっても楽しかったです。これまであまり話さなかったTさんと仲良くなった気がします。

ブラインドウォークをやっておもしろいなと思いました。なぜなら、友達が目をつぶって私のことを信じてくれたからです。

振り返りアンケートでは、「案内される時、安心して歩けましたか」という質問に対し、22名の子が、7名の子が、2名の子がと答えていた。と答えた子は、それぞれ「パートナーとふざけてしまった」「転びそうになった」と答えていたため、話をする時間を持った。

以上の児童の言葉やアンケート結果から、子供達は相手の気遣いを感じ、友達との一体感から信頼感を高めることができたと考える。



写真2 足下を気遣いながら案内する様子  
授業研究会より

アイマスクを使用しては？

薄目を開けている子も多かったため、アイマスクを使用した方が良かったのではないかと意見があった。その点については、授業の前にも考えたのだが、三年生の段階では、全く見えないというのは怖過ぎるのではないかと考え、目をつぶるという方法にした。しかし実際やってみて、恐怖心にも個人差があるので、一応準備しておき、使うか使わないかは本人に選択させるという方法がベストではなかったかと考える。

相手の支え方について

友達の支え方については、いくつかの方法をデモンストレーションしたのだが、特に男子では目を閉じている子を後ろから押すという子が多かった。そのため、この方法で相手は安心して歩けるのかという意見がでた。この方法は、子供達の中から出たもので、いくつか例示した中から自分達で選んでいること、怖ければ口に出して変えてもらうこともできることを考えると、大人と子供の感覚の違いで、子供達にとっては安心できる支え方だったのではないかと考

える。

空白の時間

互いに案内して視聴覚室へ戻ってきた時、インストラクションではパートナーを代えて続けると指示をした。しかし、実際戻ってくる時間はそれぞれで、パートナーが探せず、時間を持って余してしまう子もいた。その空白の時間にペアでシェアリングするなどの指示を出していてもよかったのではないかと指摘があった。



写真3 挙手によるシェアリング

(11) 資料

### ブラインドウォーク



3年2組 名前 \_\_\_\_\_

今日のブラインドウォークで、友達にあんないされた時、  
友達をあんないした時の気持ちや気づいたことを書きましょう。

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

アンケート x

- ・今日のブラインドウォークは楽しかったですか？ (      )
- ・友だちの気持ちを考えてあんないできましたか？ (      )
- ・あんないされる時、安心して歩けましたか？ (      )

#### 4 実践の記録

##### (1) 作業仮説1の観点から

###### 作業仮説1

レディネスを高める道徳の授業を工夫することにより、エンカウンターの目的を意識づけることができるだろう。

###### 教師の意図や手立て

エクササイズを実施するためには、学級がルールを守れることが条件になる。それなしに、エンカウンターを構成することはできない。しかし、実態調査から本学級はルールの定着の面で弱さが見られた。喧嘩が多いということも、その一つの表れであると考えられる。また、喧嘩が多いために自分の学級に対する評価を下げている子どもが多かった。そのため、「けんかもルールを守って」というビデオを見せ、同時に内容に取り入れ「ルールを守ろう」の授業を行った。

「天国と地獄」は、他者との関わりや思いやりがある世界と、ない世界が両方描かれており、三年生の段階で人とのふれ合う良さをイメージするのに大変適した話だと考え、ここで取り扱った。

###### 児童の様子

インストラクションで説明をしている時、「楽しくエクササイズをするためのルールでしょう？」という声があり、複数の人で何かを楽しくやるためには、ルールは大切であるという価値観が芽生えつつあることが感じられた。

休み時間のボール遊びの際、喧嘩になることが多いという子供達からの訴えで、教師からではあるが、ルール作りを提案した。子供達は、積極的に話し合い、生活の中でもルールという言葉がよく聞かれるようになった。

###### 児童の感想

###### ルールを守ろう

ケンカにはルールがあるんだなと思いました。動物でもケンカのルールを守っていたので、私もケンカのルールを守りたいです。そして、ケンカのないクラスにしたいです。

動物にもケンカのルールがあると初めて知りました。なので、私達人間もルールを守らないといけないということがわかりました

僕は、ルールを守って命を守っていきたいです。人を傷つけないです。

ビデオを見て、動物もケンカをするけど相手は傷つけないからすごいと思いました

###### 天国と地獄

地獄は自分の事だけ考えて、天国は自分のことだけじゃなく、人の事も考えていました。分け合ったり、助け合ったり、思いやりがあったり、協力したり、優しい心の人がたくさんいました。天国と地獄の人とは、全然違ってました。優しい心でいたいです。

地獄では自分だけがよければいいと思っている。でも天国では、人を助けていた。協力することが大切だなあと思いました。

天国と地獄のお話を聞いて、僕は死にたくないなと思いました。地獄は僕の想像通りだったけど、天国は全く違ってました。

###### 考察

「ルールを守ろう」については、ビデオの印象が強く、児童の感想はほとんどが喧嘩のルールに限定されていた。しかし、インストラクションで、エクササイズ中予想されるトラブルについて注意を促すのに大変役に立った。さらに、エクササイズの楽しさを味わう経験により、ルールを守ることが楽しさに結びつくという意識が強化されていった。

「天国と地獄」については、話し合いの早い段階で「助け合い」「思いやり」などのキーワードが児童から出ていた。しかし、感想を見ると、助け合いというねらいから外れ、天国という言葉から死へのイメージを持つ子もいた。ねらいに迫るためには、さらに工夫が必要である。

トルストイ「天国と地獄」

ある日、地獄へ行ってみると、たくさんの亡者が丸いテーブルを囲んで座っています。テーブルの上にはたくさんのご馳走が並べられているのに、亡者達はそれを食べる事ができず、飢えに苦しんでいました。よく見ると、亡者達の片腕が椅子に縛り付けられ、もう一方の腕にはものすごく柄の長いスプーンがくりつけられています。亡者達は、懸命にテーブル上の食べ物をスプーンですくって食べようとしますが、柄が長過ぎて口に持つてくることができません。ということは、地獄には食べ物がないわけではない。食べ物があっても食べられないから、そこが地獄なのです。

ところが、ある時天国へ行って見ると、人々はご馳走の並んだ丸いテーブルを囲み、互いにニコニコ笑い合いながら話し合っています。飢えなど全く関係ありません。見ると、地獄と同じように、みんな片腕が椅子に縛り付けられ、もう一方の腕に柄の長いスプーンがくりつけられています。なのに、どうしてこんなに地獄と違うのでしょうか。

見ていると、天国の人達は、スプーンですくった食べ物を自分の口に入れようとはしていません。テーブルの向かい側の人の口に入れてあげているのです。向かい側の人は、こちら側の人の口に入れてくれています。

(2) 作業仮説 2 の観点から

作業仮説 2

学級の実態に即したエクササイズを選択することにより、参加への抵抗を減らし、温かい感情交流を持つことができるだろう。

教師の意図や手立て

四月の学級開きで、「ゴリオリゲーム」というエクササイズを行った。前年度同じ三年生で行って反応が良かったという理由で選んだのだが、結果は盛り上がり欠け、「もうやりたくない。」という声さえ聞かれた。この失敗の一番の原因は、男子女子で手をつなぐということにかなり抵抗があるという学級各エクササイズの様子

の実態に沿ってなかったことにあったと考える。エクササイズのねらいを達成するためには、子供達がどれだけエクササイズに乗れるかが大切であり、そのためには、実態に合ったエクササイズ選びが大変重要になる。そのエクササイズが児童の実態に即していたかどうか、判断するポイントは二点ある。一点は、エクササイズ中の子供達の様子はどうか(抵抗を感じている子がいないかなど)ということと、もう一点は、シェアリングでありきたりな言葉でなく、本音が出るかという点である。

その観点から、それぞれのエクササイズを振り返ってみたい。

11月20日 **すごろくトーキング(ショート)**



観察と反省

- ・最初にすごろくを紹介した時は、あまり乗り気ではなかったが、いざ始まると「一位になった!」「先生、早口で引っかかったー」等様々な歓声が上がった。
- ・インストラクション後の質問がかなり多く時間がかかったが、疑問を解消してから始めたので、途中の質問はなかった。
- ・シェアリングで「今日のすごろく楽しかった人!」の声に二十数名の子が手を挙げていた。

11月26日 **ビンゴ（ショート）**



児童  
 ・発表できなかったけどお友達の好きな食べ物をたくさん知りました。お友達の気持ちや自分の好きな物をたくさん知っていると、もっと仲良くなりたくなります。

感想  
 ・ビンゴはとても面白かったです。みんなの好きな食べ物もわかるしみんなのことがよくわかるんだなと思いました。  
 ・六位だったから全然楽しくなかったです。

観察  
 ・子供達に馴染みのあるゲームだったため、説明を聞いている時から大変乗り気だった。  
 ・好きな食べ物のビンゴであったが、それを選ぶことから楽しんでる子が多かった。

反省  
 ・「リーチ!」「ビンゴ!」等の声が飛び交い活気があった。  
 ・揃った順に順位をつけさせたため、順位にこだわる子も出てしまった。

11月27日 **せんべい友達（ショート）**



児童  
 ・友達が甘い物はあんまり好きじゃないとわかりました。  
 ・私の好きなお菓子を教えた時、とてもドキドキしました。それから、わくわくしました。

感想  
 ・隣の人に自分の好きなお菓子を言って少し恥ずかしかったです。  
 ・友達を探している時は、見つかるかなと思ったけれど見つかって安心しました。

観察  
 ・ペアが見つかる時、笑顔で歓声を上げる子が多かった。  
 ・一緒に席に座る時、男女でペアの子は照れ臭そうにしてはいたが、嫌がる子はいなかった。

反省  
 ・「もう一回やりたい」という子供達のリクエストに応えたため、かなり時間がかかった。

12月4日 **か×か？**



児童  
 ・僕の問題をみんな簡単に当てられないだろうなと思ったけど、特に男子が当てていたのすごいなと思いました。

感想  
 ・どっちか迷っていると、相手の気持ちがわかるような気分になって、とても面白かったです。  
 ・自分のことを知ってもらって嬉しいです。  
 ・私はほとんど正解でした。それくらいみんなの事がわかってるんだなあとと思いました。

反省  
 ・以前に似たようなゲームをしたことがあったので、すぐに書ける子が多かったが、悩んでいる子には声かけをした。

観	・自分の問題を聞いてもらうことに喜びを感じている子が多かったが、やはり自己開示の能力にも個人差があり、極端にと恥ずかしがる子もいた。
反	・か×か答えが当たると歓声が起こり、友達が問題を読む
省	時も、かなり集中して聞くことができた。

12月11日 <b>ねえどれがいい？</b>		
	児 童 の 感 想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで見せ合って、みんなプールがいいと言っていました。みんな気が合うんだなと思いました。</li> <li>・とっても面白かったです。友達や自分の事を知る事ができるからです。</li> <li>・相手の好きな気持ちも分かったし、自分の事もわかってもらいました。</li> </ul>
	観 察 と 反 省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者択一なので簡単かと思っていたが、かなり迷って時間がかかる子もいた。</li> <li>・隣の人と交換して見せ合うことには全く抵抗はなかった。</li> <li>・活動より話し合いが多かったため、グループで見せ合う時は飽きている子が多く、感想の書き方も雑になっていた。</li> </ul>

12月18日 <b>ブラインドウォーク</b>		
	児 童 の 感 想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目をつぶって少しだけ怖かったけど、H君を信じてやりました。</li> <li>・ぶつかるかなと思ったけど、ぶつからないで丁寧にやっても感らって嬉しかったです。</li> <li>・目をつぶって歩くと、目が見えない人の気持ちが少しわかりました。</li> </ul>

1月8日 <b>団結の木</b>		
	児 童 の 感 想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今度は三年二組全員で乗れたらいいなと思いました。</li> <li>・楽しかった事は、みんなで協力したりする事でした。団結の木をやってわかりました。</li> <li>・最初はちょっと無理だなと思っていました。そして、いろいろなアイデアで達成できました。</li> </ul>
	観 察 と 反 省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・張り切って取り組み、友達と30秒新聞紙に乗るという目標が達成されると、「やったあ！」とガッツポーズをとった姿が見られた。</li> <li>・予定よりかなり早く全グループが終わってしまったため、男子全員、女子全員で行った。人数が多かったため多少の口喧嘩が起こってしまった。また、女子が先に達成したので、男子がライバル心を持ってしまった。</li> </ul>

1月15日 **自分**は**自分**

	<p>児童の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・僕の問題は簡単に答えられてしまったけれど、ちょっぴり当てられて嬉しかったです。</li> <li>・今日のエクササイズで今まで友達の知らなかったことがわかりました。</li> <li>・みんな様々な経験があるんだなぁと思いました。自分の事を知ってもらったり、相手の事がわかるから楽しいです。</li> </ul>
	<p>問題例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・僕は、迷子になってパトカーに乗ったことがあります。</li> <li>・僕はテレビに映ったことがあります。</li> <li>・私は北海道に住んでいたことがあります。</li> </ul>
	<p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけの体験、特徴という条件があったため問題作りでは、時間がかかった。</li> <li>・教師自身初めて知ったことも多かったが、問題を読み上げると、「え～」と驚く声もよく聞かれた。</li> <li>・答えは誰か本人に手を挙げてもらったが、みんなの注目が集まることに照れながらもどの子も笑顔だった。</li> </ul>

1月22日 **ありがとう**カード

 	<p>児童の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・僕は正直こんなにカードが来るなんて思ってもいませんでした。</li> <li>・優しいことを私がこんなにしたんだなと思って嬉しかったです。</li> <li>・最初は僕は見つけるのがとっても下手だから3枚位しか書けないと思ったけど、倍書けました。もらうのも予想をはるかに超えていました。</li> <li>・自分をみんなは信じてないと思ったら、みんな信じていたので良かったです。</li> <li>・自分の良い所がこんなにあるとは気づきませんでした。</li> </ul>
	<p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめにふさわしいエクササイズだった。インストラクションでは子供達はあまり乗り気でなく、カードを配っても書き始めるのが遅かった。しかし、いざ書き始め、また友達からカードをもらうと目に見えて表情が良くなり、喜びが加速していくことを感じた。子供達がどんどんカードをもらいに来るので、授業の途中で印刷し追加するほどだった。休み時間になっても作業を止める子がおらず、もっとカードがほしいという声があったので、黒板横に置き、いつでも書けるようにした。</li> <li>・内容のチェックのため一旦カードを預かったが、「必ず今日中には返してほしい。」という声が圧倒的だった。</li> </ul>

## 考察

子供達の生き生きとした様子や感想からわかるように、エクササイズ中、子供達の気が散ったり、トラブルを起こす子が出ることはあったが、状況に応じて構成を変えたり、介入することで、それぞれのエクササイズのねらいは達成できたと考える。

### (3) 作業仮説3の観点から

#### 作業仮説3

実践の様子や児童の感想を学級通信で取り上げることにより、興味関心を高め、シェアリングを補足することができるだろう。

#### 教師の意図や手立て

授業中発表する際、いつも一部の活発な子供達が挙手するため、シェアリングでもそのような状況になることが予想された。全体の場では発表できない子の気持ちもみんなで見合えるように、一学期から発行していた学級通信を活用することにした。学級通信に取り上げる際、次の四点に留意した。

エクササイズ後、子供達の感情や記憶が新しいうちに、遅くとも翌日までは発行できるようにした。

感想がよく載る子、あまり載らない子などの偏りがでないように、誰が何度取り上げられたかチェックした。

感想が載ることを予想して、本音が出せなくならないように、学級通信に名前を載せたくない子は、感想用紙に×を書かせ、意思表示させた。

確実に全員が全部に目を通せるよう、配布後教師が読み上げた。

また、学級通信は父母の目にも届くものであり、家庭で話題になることで更に子供達の興味関心が高まることをねらった。

# はっぴい〜3年2組

宮城小学校3年2組 45号

発行者 山川志磨子

## ねえどれがいい？

昨日の三時間目は、「ねえどれがいい？」というエクササイズしました。最初に前にもやったせんべい友だちでパートナーを組みます。その後、海とプール、ジュースとアイスクリーム、おとなと子ども、いなかと都会、正月とクリスマスの五問で、二つのうち好きな方一つえらび、それをえらんだわけをおたがいで発表してもらいました。それから今度は、グループを作ってもらい、くらべ合いました。その感想をしょうかいします。

- ・私が気づいたのは、みんないろいろ好きな物がちがうことです。(?)
- ・グループで話すと、みんなプールがいいと言っていました。みんな気が合うんだとおもいました。(ゆみ)
- ・自分のことを友だちに知ってもらえてうれしかったです。(せいや)
- ・友だちにばくのことを知ってもらうために、またやりたいです。(しんのすけ)
- ・今日は、同じグループになった事もない人と始めての6人グループになりました。6人は、同じ事をえらんだのが2問ありました。そして発表したり、みんなの好きな物、思っていることがとてもよくわかりました。(あやの)
- ・せんべい友だちでパートナーをさがすとき、だれとなるかドキドキしました。パートナーはもとくんでした。せんべいがピッタリと合った時、やっと見つかったと思いました。(まりの)
- ・どっちが好きかえらんだ時が楽しかったです。(すみか)
- ・プールとクリスマスでみんなと気が合いました。楽しかったです。(あかり)
- ・エクササイズは遊ぶんじゃなくて勉強なんだと思ってがんばってみました。すると、楽しくておもしろかったです。せんべい友だちで決める時、しょう君と合いました。そして、8グループにすわり、見せ合いっこをして少し合いました。気が合うのかなと思いました。(ゆうと)
- ・いろいろみんなのことがわかってとってもよかったです。次は、まだあたってない人のことをわかりたいです。(しょう)
- ・今度もエクササイズをやって自分の事や友だちの事をもっともっていききたいなと思っています。(たくや)
- ・ねえどれがいい？のプリントで私は一つにえらべない物があつたけど、みんな全部一つをえらんでいたの、とてもすごいと思いました。(?)
- ・同じ物やちがう物があつて、とてもおもしろかったです。みんなの何がすきか知って、びっくりしました。(?)

## 児童の感想(『はっぴー』は学級通信名)

今まではっぴーのエクササイズの感想を読んで気付いたのは、友達と同じエクササイズをやっても、私とは違う感想だったことです。

私が書いた感想がはっぴーに載ると、とても嬉しかったです。私の思った事をみんなが聞くのは少し恥ずかしかったけど、みんなに私の気持ちを伝える事ができたので嬉しかったです。友達が書いた感想を読むと、友達はこんなふうに思っていたんだということがわかりました。

私と違ったりしても、みんな自分の考え方で考えたりしているんだなと思いました。

僕ははっぴーを読んで、友達がこんなふうに思ってるんだなとか、僕をそんなふうに思っているんだなと思いました。僕ははっぴーがくるのが楽しみです。

自分の気持ちを相手に伝えられるから、はっぴーに載せられるととても嬉しいです。

僕の感想が載った時は、とっても嬉しかったです。家に持って帰ってお母さんに「僕の感想はどれでしょう。」と言ったら、すぐに当てられたので嬉しかったです。

はっぴーに自分の良い所が書いてあって自分でも私はこんなにいいところがあるのかな？と思いました。



写真4 はっぴーを読んでいる様子

#### 父母の感想から

息子は学校でのお話をほとんど語ってくれません。はっぴーはそんな息子との会話のきっかけになり、とても助かりました。毎回の感想文で今の子供達の心の動きが見えて、とても温くなるものばかりでした。ありがとうカードは読んでいて涙が出て来ました。

はっぴーを通して、最初に目に行くのはやはり自分の子がどんな意見を書いているのかとても気になる所です。家庭では気付かないその子の様子がわかるからです。その意味では、もう一つの通知表のような気がしました。

何気なく過ごしている日常を振り返りながらカードを使ったりして、文字に表わすだけで「誰かに助けてもらっている」「誰かを助けてあげられた」等、毎日が一人じゃない事を子供なりに感じてくれるようになりました。

クラスの友達のことをたくさん知り、自分自身のことも知ってもらい嬉しいような

恥ずかしいようなそんな感想でした。ありがとうカードでは、娘はお友達からこんなふうに思われているのかと親として嬉しくなりました。

「今日はこんなゲームをしたよ。」「せんべい友達や目隠しをして歩くのが楽しかった。」と自分の書いた感想文が載ると、喜んで話してくれました。自分自身の事を話したり、相手の事を考えたりすることで新しい発見もいっぱいあったようです。

#### アンケート結果（1月23日実施）

表3 学級通信に関するアンケート（人）

	はい	いいえ
はっぴーに自分の事が載った時嬉しかったですか	29	5
はっぴーで友達の感想を読むのは楽しかったですか	34	0
友達の感想を読んで発見した事や初めて知った事がありましたか	30	4

#### 考察

エクササイズの感想を載せる前は、学級通信を配布しても、そのまま机の中にしまう子どもが多かった。しかし、感想を載せるようになってからは、配られるとすぐに目を通し、教室が静まりかえるほどであった。児童の言葉からも、自己開示の喜びや、友達について新たな発見があったことがわかる。また、父母の言葉から、家庭でも話題にのぼったこと、子供達同士だけでなく、父母へのシェアリングにもなったことがわかる。

#### 研究の考察

##### 1 Q-Uアンケートから（1月21日実施）

## 学校生活意欲尺度の結果

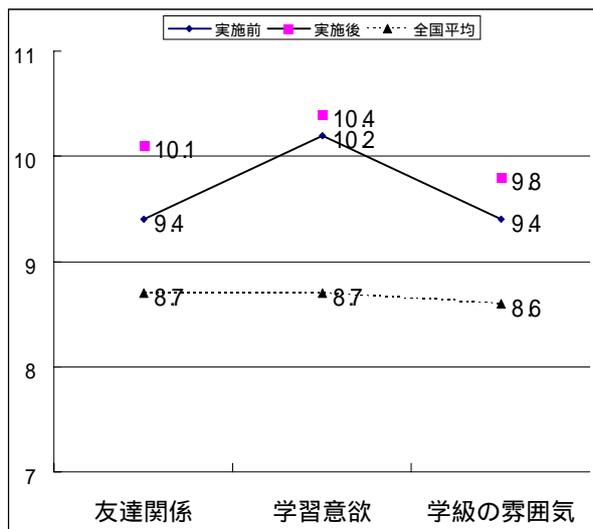


図5 学校生活意欲尺度

エンカウンター実施前後で比べると、三つの項目とも得点が上がっている。

特に、友達関係で変化が大きく、0.7ポイント上昇している。

## 学級満足度尺度

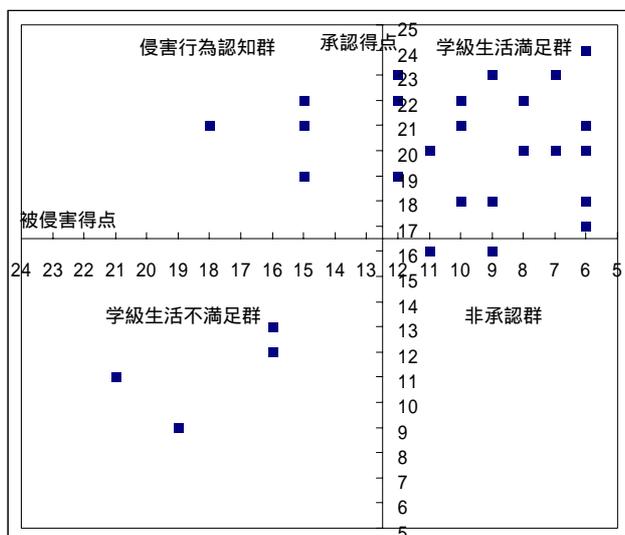


図6 学級満足度尺度

エンカウンター実施前後で比べると、学級生活満足群が増え、全体的に分布が右上に集まってきている。

特に、非承認群から学級生活満足群への移動が目立った。

侵害行為認知群の子供達は被侵害得点が減少しており、学級生活不満足群の子供達も承認得点は上昇している子が多い。

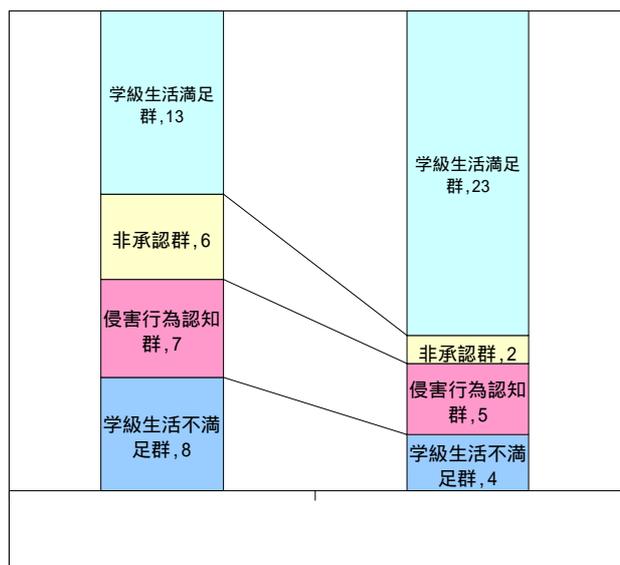


図7 学級満足度尺度の推移

非承認群、侵害行為認知群、学級生活不満足群がそれぞれ減少し、学級生活満足群がかなり増えた。

## 2 抽出児の変容

### (1) 要支援群の女子A児について

第一回目のエクササイズでは、かなり抵抗を示し、「やりたくない。」と言って教室から出て行った。話を聞くと他のメンバーならできそうということで、グループを変えて参加させた。

二回目は、ワークシートをふざけて書いていたが、側について書き方を教えると参加することができた。

三回目の「せんべい友達」から変化が見られ始める。最初は「面白くない。」と言っていたが、体験してみると楽しかったようで、表情ががらりと明るくなった。その後のエクササイズから授業後の感想もきちんと書くようになり、「楽しかった。」「またやりたい。」など肯定的な言葉が多くなった。エクササイズ中、他の行動をすることもなくなり、笑顔が多く見られた。「ありがとうカード」では、一学期からトラブルが多かった男児に対し、「いつも優しくしてくれてありがとう!」というメッセージを送っていた。

Q-Uアンケートでは、逆に要支援群に入

ってきた。しかし、他のアンケートでは、実施前「学校は楽しくない」「学級の友達は意地悪」と答えていたのが、実施後「学校は遊べる」「友達は優しい」と答え、かなりの変化を見せていた。また、Q - Uの友達紹介コーナーでは、A児について紹介している子が増えており、A児に対する周りの変化も見られた。

## (2) 要支援群の男子B児について

依然要支援群にあり、被侵害得点には変化がないが、承認得点は上昇している。それを裏付けるように、友達紹介コーナーでは、紹介する友達の人数が増えており、またB児を紹介する子も増えている。紹介する友達の良い所を、前は「スポーツができる」「優しい」と書いていたのが、後には「遊んでくれる」など、友達との関わりが感じられる言葉になっていた。実際、休み時間一人でいることが多かったのが、以前よりは友達と関わる姿が見られるようになった。

## 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

ルールや助け合いをテーマとする道徳の授業を工夫することにより、児童のレディネスを高めることができた。

学級の実態に即したエクササイズを実施することにより、エクササイズへの積極的な参加を促し、友達との温かい感情交流から児童相互のリレーションを深めることができた。

学級通信を活用することにより、児童の興味関心を喚起し、自分自身や友達への気づきを分かち合ったり、違いを認め合うことができた。

導入の段階で、ゲーム性の高いエクササイズをショート（15分程度）で行ったため、時間的に無理なく、児童の意欲を高める事ができた。

インストラクションでカードを使う事によ

り、エクササイズのねらいや方法を簡潔明瞭に示す事ができ、エクササイズ中に児童が混乱する事がなかった。

エンカウンターについて、学級通信で取り上げる事により、学級や児童に対する、父母の理解も深める事ができた。

### 2 今後の課題

年間を見通した指導計画作り

社会性の弱い子への個別の支援のあり方  
シェアリングの時、国語力の弱い子が自分の気持ちを表わすための手立ての工夫

思考、行動面からよりよい人間関係の知識や技術を教える、ソーシャルスキル教育との組み合わせ方

あらゆる教科、領域での生かし方

エクササイズ中、あらゆる場面に対応できる教師自身のリーダーとしてのスキルアップ

### 【おわりに】

今回、前々から興味を持っていた構成的グループエンカウンターについて学ぶ機会を与えて頂き、大変充実した日々を過ごすことができました。

現在受け持っている学級は、進級当初から喧嘩が多く、果たしてこのクラスでどれだけの成果があげられるだろうかと不安の中でのスタートでした。しかし、いざ授業が始まってみると、子供達の生き生きとしたリアクションに不安も吹き飛んでしまい、また、予想以上の子供達の変容に、構成的グループエンカウンターの可能性を改めて感じています。やはり、教師の働きかけで子供は変わるのだと確信しました。教育研究所での、このテーマについての研究はここで一区切りつきますが、今後も個人の課題として学校現場での実践の中で研究を深めていきたいと思っています。

研究期間中、いつでも温かく励まし、惜しみないご指導を下された、大城淳男所長、當間正和係長、山里昌樹指導主事、職員の皆様、心から感謝しています。出会いは宝だと改めて感じています。そして、課題検討会などで、様々な角度からご助言を下された浦添市教育委員会の諸先生方へ深く

感謝申し上げます。更に、私を快く送り出し見守って下さった与儀啓子校長先生、学校へ行くといつでも温かく声をかけ気遣って下さった本校職員の皆様、本当にありがとうございました。そして最後に、今回の私の研究テーマでもある温かい人間関係がいかに人を力づけるかということ、改めて教えてくれた研究員の小谷美枝子先生、城間安子先生、大城えり子先生、神森誠司先生どうもありがとうございました。素晴らしい仲間に出会えて幸せです。

【主な引用、参考文献】

- 国分康孝ほか共著  
「エンカウンターとは何か」  
図書文化 2000
- 国分康孝  
「育てるカウンセリング入門」図書文化  
国分康孝監修 岡田弘編集  
「エンカウンターで学級が変わる 小学校編」  
図書文化 1996
- 国分康孝監修 国分久子 岡田弘編集  
「エンカウンターで学級が変わる 2 小学校編」  
図書文化 1997
- 国分康孝監修 河村茂雄ほか編集  
「エンカウンターで学級が変わる 3 小学校編」  
図書文化 1999
- 国分康孝監修 林伸一ほか編集  
「エンカウンターで学級が変わる ショートエ  
クササイズ集」 図書文化 1999  
河村茂雄編著  
「グループ体験によるタイプ別学級育成プロ  
ラム」 図書文化 2001
- 国分康孝編集代表  
学級担任のための育てるカウンセリング全書 1  
「育てるカウンセリング」 図書文化 1998